

巻頭言

第11回 通常総会記念シンポジウム

『大震災から4カ月、私たちができたこと、学んだこと、これからめざすこと』
—開催にあたって、共有し合い、考えあいたい視点について—

地域と協同の研究センター 専務理事 向井 忍

地域と協同の研究センターでは「協同と地域でのつながりづくり」について、これまで継続して探求してきました。そんな中で、東日本大震災があり、多くのみなさんが支援活動に取り組みました。そんな経験を持ち寄り、今回、「協同と地域でのつながりづくり」について考え合うシンポジウムを総会記念として2011年7月9日（土）に開催します。東海の地域で、震災支援に取り組んだ実践を持ち寄り、報告し合い、私たちができたこと、学んだこと、これからめざすことを、ぜひ考え合いたいと思います。ここでは、「協同」と協同組合に求められることを、これから考え合っていくための視点について述べたいと思います。

◆この災害時に「協同」はどんな力を発揮できたのか

これまで地域と協同の研究センターは、平常時の「地域のつながりづくり」として協同の価値と可能性を探ってきました。しかし、3月11日の東日本大震災は、災害発生時と緊急支援、復旧への継続的支援、さらに地元が主体となった復興で、私たちの「協同」は、どんな力を発揮できるのかという問いを投げかけました。大震災から4ヶ月が過ぎ、全国的な災害支援の到達点と各分野の支援活動をふりかえり、この課題を参加者で考えます。

◆全国の市民組織やNPO・協同組合等の連携はどこまですすんだか

問題提起をいただく、栗田暢之さん（NPOレスキューストックヤード代表）は、3月11日大震災発生直後から全国の

《 地元ボランティアを通じて
 コープあいち 支援タオル引渡し 》

災害支援団体に連携を呼びかけ、現在548団体が加盟する「東日本大震災全国支援ネットワーク」の代表世話人の一人として支援活動の先頭に立っています。



「広域」「長期」「複雑（原発）」で、被災県と市町村によって進捗は異なっていますが、大震災から4ヶ月が過ぎた時点で、全国的な支援と現地が主体となった復興の到達点とこれからの課題、その中で協同組合の役割や期待についてお話いただきます。

◆一人ひとりの被災者（避難者）への支援はどのように進んでいるか

この災害で自宅外避難者は6月2日現在47都道府県で12万人を超え、岩手・宮城・福島県以外に約5万人が避難（愛知県1168人、岐阜県359人、三重県170人）しています。その7割強は福島県からですが「最近宮城県からの転入者も増えている（愛知県）」とのこと。大変多くの方が県外避難を余儀なくされています。阪神大震災で県外避難者支援に着手されたのが震災2年後だったことに比べ、現在は「受入れ被災者登録制度」があります。シンポジウムでは、受入れの現状と課題について、愛知県の被災者受入れを事例に紹介いただく予定です。

◆各分野で協同組合はどのように力を発揮できているか

災害直後から日本生協連を中心に全国の生協が支援に参加しました。また被災した沿岸部の農業や漁業復興に、協同組合が果たす役割も注目されています。生協や農協（医療・大学生協も）など協同組合の取り組み、また障がい者の災害支援について、現地での状況を報告いただきます。深刻な原発「事故」は、原発に依存しない抜本的なエネルギー政策への見直しを求めており、浜岡原発を抱える東海地方にとっても焦眉の課題となっています。この原発・エネルギー問題は総会シンポジウムとは別に企画をもつ予定にしています。

◆長期にわたる地域の復興に、どのように関わっていけるか

地域の復興にむけて、全国の生協は「生協間支援」「ボランティア派遣」だけでなく「災害ボランティアセンターの運営」や「仮設住宅への引っ越し支援」「NPOと連携した現地活動」など様々に取り組んでいます。長期にわたる被災地域の復興に求められる関わり方は何か、NPOやボランティア、生協などが連携している岩手県気仙地区（大船渡市・陸前高田市）での経験を報告いただく予定です。

研究センターNEWS

東日本大震災被災者支援 ボランティアの取組状況と課題 《NPOレスキューストックヤード代表栗田暢之さんに伺いました》インタビューより

1. 現地を主体に - どのような変化がうまれていますか？

- レスキューストックヤードが活動する宮城県の七ヶ浜町で地元中学生が仮設住宅の表札をつくりました。大工が流木を切り磨いて、造形大の先生がデザインを指導して、つくった表札です。その輝く場面で一体感が生まれ、中学生からは「これから、私たちができることがありますね。」という意欲が語られました。
- 海（浜）の清掃もボランティアで片づけるのでなく、できるだけ地元の人に関わります。地元の人から七ヶ浜町の「7つの浜の自慢」を聞くことでボランティアが浜に愛着が生まれます。海水浴場の菖蒲田浜には、年間10万人が来ていました。「もう一回来たい！」とリピーターになってもらえればと思います。

2. 被災した市町村行政の状況は？

- 国の事業費を使うにも県宛に（被災した）市町村が書類を書かなければならない。そんな余裕はないので事業費を使えません。
- 仮設住宅に「家電6品」が提供されます。しかし、住宅のコンセント部分がゆるくて「電源がはいらない」という声があります。仮設住宅の天井から電灯が突然落ちて子どもにぶつかりそうになったということもあり、4件も同じことがあったので調べると電灯を止めるねじ4本の2本しかつけていなかったということでした。そういう苦情もすべて行政にいきます。

3. 地元の漁業再建への可能性は？

- 「津波のときはまっすぐ波に向かって沖にだせ」という教えを守って漁船は残っています。その漁師が漁業をやりたいとしょうがない。
- 漁船を海に移動させるフォークリフト1台と、魚を陸に水揚げするクレーン車、保冷用に保冷車の後ろ二つ分があれば漁を始めることができる。水揚げした魚をコープが利用すれば感動的なコラボレーションができます。そういう若い漁師が2～30名はいます。

岩手県陸前高田市の海岸（5月31日）



4. 地域コミュニティへの課題は？

- 「炊き出し」や「足湯でニーズを聴くこと」は盛り上がるがその次が難しい。「地域が主体」に「生きがい」と「雇用」「未来への希望」、それを支える土台をどうつくるかです。
- 3時間泳いできた人はその間に波間で100人位の遺体を見ている。イオンの屋上にいた人は一晩中「助けて」という声を聞いて過ごしている。PTSDはこれから出てきます。
- 「新しい公け」へ、周りが決まってしまう前に今ふんばらないといけないと思います。

5. 支援の活動を継続していくには？

- 支援の見えやすい形をつくることです。仮設住宅でタオルを使ってぞうさんをつくり、それを買うことで仕事にする「ぞうさんタオル」の活動があります。それをすすめるにはタオルが何枚あっても足りません。
- 生協組合員に「災害があったとき『大丈夫？』と隣で声を掛け合いましょう」というチラシを配りたいと思う。生協組合員は熱心だから。
- 災害ボランティアセンターでは被災者が見えません。現場に行かないと、本当のニーズがわかりません。ニーズの申請主義ではだめです。



ボランティア団体による
タオル加工品
「人形型の 壁掛けタオル」

被災者の「生きがいしごと」としてつくれた
「まけないゾウ」
(壁掛けタオル)
(6月11日)



6. 県外被災者の受入れについて

- 阪神大震災の時には、県外避難者への支援がなく、2年後に地元行政が情報を出すようになりました。阪神大震災の受入では学生が活躍しました。新川町に2年住んだお年寄り「孫（のような学生）」とくらして、神戸の福祉住宅に帰りましたが、そこは市内から遠く60歳以上ばかりでペットもいないところでした。普段は寂しい住宅です。しかし、そこは「コープがあって助かった。」、また「孫に出会えて、本当に良かった」と言われました。若い人の係わりが大切です。

地域でのつながりを追う3 コープぎふ「おたがいさまひだ」ねこの手集會を訪ねて

「困ったときはおたがいさま」 楽しく子育てができ、年をとっても安心して暮らせる 地域のお手伝いを

コープぎふの「おたがいさまひだ」の第3回総会が、2011年5月10日（火）に高山市民文化会館にて開催されました。

3月の東海交流フォーラムで、設立までの経過と設立後の取り組みについてお話をうかがう予定でしたが、東日本大震災の関係で来ていただけなくなりました。そのため、総会におじゃまして、取材をさせていただきました。あたたかい「おたがいさまひだ・ねこの手集會」でお聞きしたこと、代表の濱佳子さんにお聞きしたことをみなさんにお届けします。

文責：伊藤小友美（事務局）

「おたがいさまひだ」では、次の3つを大切にしてい

◇岐阜県高山市◇

飛騨の小京都と呼ばれている高山市は、岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、周囲を飛騨市、下呂市、郡上市、大野郡白川村、長野県、富山県、福井県、石川県に囲まれています。2005年に、旧高山市を中心として周辺9町村を編入合併して誕生しました。この合併により、日本で最も広い市町村となりました。香川県や大阪府よりも広く、東京都とほぼ同じ面積です。県の面積よりも広い市町村は全国で唯一ですが、山林が92%を占めているため、可住地域は限られています。人口は9万6千人。高齢化率は23.9%です。



ます。

1. ちょっとした暮らしの困りごとを気軽に助けあえて「おたがいさま」と言えるつながりを大切にします。
2. 「私にできること」で「人の役に立ちたい」という思いをつなぎ、一歩ふみ出す「自分づくり」を応援します。
3. 楽しく子育てができ、年をとっても安心して暮らせる、住みやすい地域づくりを応援します。

応援者として登録された方は、2009年度91名、2010年度は128名になりました。利用者登録は、2009年度44名、2010年度117名です。実際に応援に入った方は64名、利用した方は82名（その内新規の方が73名、年代は20代～90代）でした。協力者（一口500円（以上）の協力をした方）は26名でした。

2010年度の応援時間は2321時間。（2009年度は1359時間です。）その内訳は、家事応援が645時間、育児応援が632.5時間、介助応援が782時間、その他261.5時間です。



「おたがいさまひだ」
代表 濱佳子さん

この飛騨で、「困ったときはおたがいさま」の活動を広げてきたメンバーは、地元出身ではない女性たちです。年齢も、経験もさまざまな女性たちが、それぞれの特技、特性を活かして、地域でのつながりを紡いでおられます。

◇「おたがいさまひだ」の概要◇

2008年6月に、おたがいさまひだ準備会がスタートしました。準備会では、「くらしのすけあいの会」の内容を充実・拡大して「おたがいさまひだ」として新たな組織を立ち上げ、人と人とのつながりが薄れ、孤立化し、くらしの不安が増大する中山間地域において安心して暮らせる地域づくりを目指して、活動をされました。そして1年の準備活動を経て、2009年6月「おたがいさまひだ」は設立しました。

「おたがいさまひだ」は、飛騨支所エリアの利用者（組合員でなくてもよい）を応援者（登録組合員）がサポートする有償ボランティア組織です。家事応援や育児支援、介助支援など、利用者が手を借りたいと思うことならなんでも引き受けています。

◇「おたがいさまひだ」ができるまで◇

「おたがいさまひだ」のマスコットは小判を胸に抱いたまねき猫です。合い言葉は「ねこの手貸します!!」。テーマカラーのオレンジ色のTシャツを着た役員や、スタッフのみなさんはとにかく元気で明るいのです。この2年間、さまざまな地域のお困りごとをつなぐことで、「おたがいさまひだ」は飛騨の地にしっかり根付いた様子です。

ねこの手が欲しい困ったとき、まずここへ電話をしてみようと思う人がいて、いつもにこにこ、何でもとにかく引き受けるように前向きに考えようとする代表でコーディネーターの濱さんがいて、「やってみようか」と

応える仲間がいるのは、やはり生協のつながりが生んだ宝物です。

コープぎふが「郡上一揆」の映画上映に取り組んだのをきっかけに、地域でのつながりを紡ぎ始め、グループホーム作りの一歩を踏み出した高井道子さん（現NPO法人「ほのぼの朝日ネットワーク」理事長）の取材をさせていただいたのは、9年前のことです。濱さんも、そのときのメンバーの一人でした。住み慣れた地域で、認知症があっても安心して暮らせるようにしたいという願いと努力が、高山市朝日町でのグループホームという形になっています。認知症予防や子育て支援にも取り組むNPO法人「ほのぼの朝日ネットワーク」との連携もあって、「おたがいさまひだ」は行政からも信頼されるようになっていきます。

濱さんは、京都のご出身で、15歳のときに飛騨へ越してこられたそうです。コープぎふのくらしたすけあいの会ができたときから、関わっておられます。2002年から2007年に、コープぎふの理事を務めながら、コーディネーター部会や幹事会にも参加をされ、福祉の勉強を重ねて来られました。そして2008年、「おたがいさままね」の訪問を通して、「おたがいさまひだ」の設立に最初から尽力をされています。

濱さんのモットーは、私に何ができるかをまず考えるということ。頼まれたことは、まず断らずに、応援できる人を探すことだそうです。

◇「おたがいさまひだ」の応援活動◇

さて、どんな「ねこの手貸して」という声があったのか、聞いてみました。高齢者からの依頼が増えているそうです。

通院の付き添い、診察券出し・お掃除・団体託児、個人託児・お年寄りの話し相手・買物・夕食作り・七五三の着付け・お弁当づくり・障がいを持ってみえる方への家事応援・犬の散歩・猫の世話・草取り・花木の水やり・雪かき・パソコン相談・銭湯への送迎など、さまざまな依頼があり、それに応えています。「この2年間、いろいろなドラマがあったのよ。」とは濱さんの言葉です。結婚記念日のサプライズのプレゼント、コンサートのチケット取りという依頼もあり、インターネットと電話を駆使してなんとかチケットをとることができ喜ばれたこともあったそうです。事例をいくつかご紹介しましょう。

OAさんの場合

草取りの依頼があり、草を刈ったら隠れていたほうずきが顔をのぞかせました。Aさんに、「どうしましょうか」とお尋ねしたら、「ください」と言われてお渡ししました。後日、素敵な絵手紙が届きました（写真参照）。

「草の中からの宝石をありがとう」との言葉が添えられていて、とてもうれしく思いました。

OBさんの場合

Bさんは視覚障がい者です。生協の商品を利用しておられますが、注文はサポーターさんに手伝ってもらっていました。あるとき、大変だから、「おたがいさまひだ」で何とかできないかと依頼がありました。



犬も飼っているのですが、散歩等、専門の業者に頼まれていました。「おたがいさまひだ」で犬の散歩をすると、犬のあとの状態がよいらしくて、それがきっかけで、家の中の掃除もさせていただけるようになりました。信頼関係が高まり、お掃除だけでなく、食事づくりにも入れるようになりました。毎日800円で、30分で終わることもあるので、申し訳なくて、もうひとつ金額の枠を考えました。500円ワンコインで、土日祝日も応援に入っています。500円の内、「おたがいさまひだ」は100円いただいています。臨機応変に対応できるようになりました。

Bさんは透析にもかかっておられます。足のあかぎれが悪化して、名古屋の病院に入院されたのですが、この春亡くなられました。犬の散歩には、3～4人が関わっていました。この「おたがいさまひだ」の関わりの中で、亡くなられたのは初めてで、ショックを受けた若い方もありました。息子さんがひとり暮らしになられたのですが、

今まで通り、お掃除も、犬の散歩もお願いしたいと言われました。息子さんの名前で登録しなおしてもらい、今も応援に入っています。（編集部補足：視覚障がいの方からの依頼は、この2年で4人もあったそうです。）

OCさんの場合

Cさんは高齢者の80歳過ぎの方です。毎日、夕食づくりの応援に入りました。何種類かおかずをつくるのですが、「洗うのが大変だから、ひとつのお皿に盛って」と言われて、そのようにしています。流しもきれいにして帰りました。二ヶ月くらい、夕食づくりは続きました。

ODさんの場合

Dさんは学校の先生で、夫とそのお母さんと娘（高校生）と暮らしています。おばあちゃんが認知症になって

Aさんからの絵手紙



困っていました。そこで、毎日月曜日から金曜日の夕方16:30から18:00まで応援に入ることになりました。食事づくりが大好きな方が、片道11kmの道のりを通っています。おばあちゃんの見守りをし、お掃除もして、夕食のおかずを一品つくって喜ばれています。

OEさんの場合

Eさんは高齢の男性です。新築のきれいな家で一人暮らしをされています。最初は薬を背中に塗ることができないので、週に一度ということで応援に入りました。話し相手が欲しかったようで、お掃除をしている間も、洗面所や台所の椅子に座っておしゃべりをされました。

急に容体が悪くなったと聞き、看護師さん（おたがいさまひだの登録者）と一緒に訪問すると、「ご飯を食べていない」と言われたのでおじやをつくりました。その後、施設に入られましたが、毎日、朝ご飯の介助（といってもお昼ごろ）に入りました。「こんな柔らかいもの食べたくない」と言われ、だんだん普通のご飯を食べることができるようになりました。病状は一進一退を繰り返しながら、最近亡くなられました。あらためて食べることの大切さを感じた応援でした。Eさんの人生の最後に、食べることのお手伝いができてうれしく思っています。

◆ねこのおつかい◆

その他の活動として、2010年度は、日生協福祉活動推進助成金を受け「過疎豪雪地帯にお住まいの高齢者への買物支援」（ねこのおつかい）をテーマに調査を行い、生協の商品を1人・2人世帯用にリパックした「おたがいさまセット」の実験を通して、地域の方の声を聞かせていただきました。

過疎化がすすむ飛騨の地域には、買物に困って見える方がたくさんおられます。生協の共同購入の商品を、3個・4個パックを崩して1個にしたり、キャベツを半分にししたりして、1000円と1500円のセットをつくりました。生協の商品案内を見ても、年寄りにはわかり難いと思います。こうだったらいいなというセットをつくり、商品の説明のコピーをつくり、袋に入れ、アンケートも付けて4回配りました。電子レンジで温めて手軽に食べるのできるものを、多く入れました。関心を持ってくれる人も多く、たくさんのご意見もいただきました。これからも取り組みたいと思っています。今年度はもっとたくさんの方に関わってもらいながらやりたいと考えて

います。

◇その他の活動◇

講座活動にも取り組んでいます。お菓子づくり、認知症の学習、読み聞かせ・紙芝居などの学習も定期的に開催しています。お菓子づくりは殊に評判で、1年半くらい続いています。「こんな時代だからこそ手づくりのよさを伝えたい」とおっしゃる講師の名倉文代さんは、誰でもできることを毎月考えています。和気



お菓子づくり

あいあいのいい講座だそうです。メニューは、いちご大福、パンナコッタ、ひじきクッキー、りんごのケーキなどです。

子育て支援としては、高山市清見町ある飛騨絵本美術館「ポレポレハウス」の中澤先生に相談して、読み聞かせ、紙芝居の方法などの勉強会もしています。

「認知症と家族の会」も毎月開催しています。制度を知ってもらうことも大事です。初めての経験で、家族の状況を受け入れることが難しい場合も多く、悩んでいる方もたくさんいらっしゃいます。若い方にも知ってもらうことがたいせつで、なんでも話し合える場として継続して行っています。



「ほのぼの朝日」のスタッフにも参加してもらっています。とても楽しい会になっています。



◇今後に向けて◇

ねこの手集会の昼食は、毎回メンバーの手づくりです。今回のメニューは、飛騨の祭りをイメージしてつくられています。筍の入ったちらしずし、あずきなの天ぷら、ほうれん草のごま和え、ころいも、赤飯、こもとうふ、煮イカ、紅白まんじゅうの天ぷらなどです。飛騨地方ならではのご馳走に、会話も弾みます。毎年、集會に参加された方の中から、事務局を担う人や、コーディネーターが生まれています。



今年の会場では、応援者の方から「明日、お掃除の応援に行くのですが、一緒に行ってくれる人いませんか。私はお掃除のプロ。お掃除のコツも覚えられますよ。」などという発言も飛び出し、めでたく、一緒に応援に行く方が見つかるというできごともありました。

「おたがいさまひだ」の監事でもある高井道子さんは「ひとりでも多くの困った方を助けることを基本に、あきらめずにつなげているのが「おたがいさまひだ」です。浜さんは、絶対に断らない。そこから始まっています。つながらなかつたら「ごめんなさい」しますが、最初はとにかく引き受けています。それが実績につながっていると思います。」と監査報告の中で言われました。

「2011年度は2500時間を目標に、応援者・利用者・コーディネーター・運営委員・事務局などのなまを増やすこと、他団体やエリア委員会・生協の職員とつながること、おしゃべりの場をたくさん設けること、ホームページや通信でお知らせをすること、高齢者の買物支援や、子育て支援などのお役立ちなどにがんばりたい」との提案があり、参加のみなさんから温かい拍手が起りました。



楽しく子育てができ、年をと

っても安心して暮らせる地域の、お手伝いをしているという誇りを持って応援をしたり、されているみなさんは、口々に「資格がなくてもできることで無理なく応援できる」「過疎地域の活性化につながる」「有償なので気がねがない、責任もできる、堂々と頼める」「人との出合いを大切に一人一人が大切にされる」「運営スタイルが柔軟、みんなで決め考える」「自分にできることがあると発見！うれしい」「何でもOK！気軽に何でも相談できる」と言います。

コープぎふ理事の上林美也子さんは、運営委員として「おたがいさまひだ」とコープぎふ理事会をつなぐ

橋渡しの役を楽しみながらしておられます。

代表の濱さんは「依頼があつたら拒まず、ただただ受けてつなげていたらこの時間になりました。この2年間に応援に入った方のなかで何人か亡くなった方もあります。今後もそういう場面に出くわすことがあると思いますが、受け止めながら、最後までいい人生を送ってもらえるように、応援活動を続けたいと思います。何か私たちが得ているものはあるはず。それを大事にしながら、できることをしていきたいものです。」と総会の最後に締めくくりをされました。

司会をされたコーディネーターの村中美耶子さんは、今、4人目のお子さんを妊娠中です。少し産休を取ったあと復帰される予定ですが、「安心して出産、子育てができるのは「おたがいさまひだ」のつながりがあるから」と笑っておられました。

高山市はたいへん広いので、依頼があつても応援者がいない地域もたくさんあります。上宝地区から、病院の送迎を頼まれたときには、近くで応援に入ってくれる方を一生懸命探し、利用者さんにはとても喜ばれたそうです。飛騨市の神岡からも要望があります。少しずつ仲間が増える中で、ねこの手の行き届く地域もこれから増えていくことでしょう。

温かな気持ちに満たされて、春の雨降る飛騨路をあとにしました。女性たちのつながりが、いい地域をつくる原動力になることを実感し、また五年後、十年後を楽しみにしたいと思います。

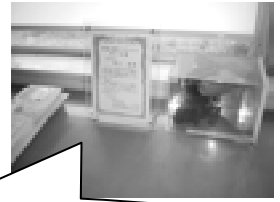
「おたがいさまひだ」ご利用規約

| | |
|-----|--|
| 利用料 | 平日9:00~17:00 1時間800円(やむを得ず30分に満たないときは1回500円) 土曜・日曜・祝日・上記以外の時間 1時間900円 |
| 交通費 | 自家用車 1kmあたり20円 公共交通機関 実費 |
| 利用 | 1時間から。1時間を超えると30分単位。 |
| その他 | 必要な費用は実費精算(例:機械の燃料費、運搬時のガソリン代等) 当日キャンセルは、キャンセル料800円。 |

地域と協同の研究センターでは、地域でのつながりをテーマにフォーラムやシンポジウムを開催しています。引き続き、みなさんの地域の情報をお寄せください。



マイスターとしての仕事づくり —共同購入事業マイスターコース第2期修了生に聞く—



階段踊り場に「マイスター認定証」が掲示されていました！

今年度も当研究センターの主催で、第3期共同購入事業マイスターコースを開講する運びとなりました。そこでマイスターコースの修了生がどういう思いで仕事に向き合っているか、どんなマイスターになっていこうとしているか、マイスターコースを修了してのその後を取材させていただきました。

コープあいちの大府センターを尋ね、第2期修了者の堀口 能（ちから）さんの配達などの仕事振りを見せていただきました。ご本人と周囲の方より、いろいろお聞きしたことを合わせてご紹介します。文責：鈴木隆司(事務局)

堀口さんは今年入協5年目の26歳、今年度エリアチーフになられ、大府センターでは若手とベテランに挟まれ、まさに若手の兄貴分として橋渡しの立場の方です。取材当日は火曜日で、週2コースの受け持ちのうちの常滑市のコースの配達の日でした。このコースは共同購入班と個配を合わせて63箇所になり、供給としては平均30万円、会える組合員は10～15人程度だそうです。1日コースで朝8時半には出発され、最後の班は少し遅れてしまい4時半過ぎになりましたが、元気に配達されていました。もうひとつは日間賀島への配達コースで、昨年の日間賀島への配達開始に当たり、先頭に立って生協をお知らせする活動や、配達説明等に取組み、その後も担当をされているそうです。

◆朝の積み込みはパートさんが出発前に統一した標準の積み込み方で積み込みを行います。点検をして出発です。本日の配達の荷降ろし箇所は63ヶ所です。



◆この日の最後の班です。常滑市の海水浴場のある集落の班で、狭い道を通っての配達でした。数少ない、組合員に会える「班」だそうです。この日は組合員さんの息子さんの男子学生の方ともう一人の組合員の方の2人の荷受けでした。

◆配達のない日は、担当エリアの代理の配達によく行くそうです。本人によるお誘いや若手よりのお誘い（アポ）情報の対応等の調整で毎日遅くまで奮闘され、他のメンバーの毎日の配達の相談や手伝いでも忙しいそうです。

◆堀口さんに「マイスターの仕事作り」についてお聞きしました。

問：マイスターコースを受けて変わったこと、変えたこと、役立っていると思うことはなんですか。

「4生協（東海3生協とならコープ）の皆さんが受講しており、グループワークなどで他生協の話聞いていたりすると、今までなかった新しい発見が多くありました。人の考えや思いを聞くという事は、自分を見つめ直すきっかけにもなりました。またコース受講で宿題とされる課題で、普段聞かない事を組合員に聴き、深く知る事が出来ました。そして組合員が、生活の中で、何を求めているのか、生協職員として何ができるのかという事を考えながら仕事をするようになりました。」

問：どういう思いで仕事に向き合っていますか。

「現在、配達は常滑と日間賀島の2コースの配達をしています。日間賀島は皆さんがほとんど知り合いで、情報がすぐ伝わったりするので、話をしていない人でも生協について知っていたり、親切にいただいた事もありました。やはり他の地域にはない独特の地域性があります。島の配達が始まってまだ1年も経過していませんが、生協の認知度はかなり高まっているかなと感じます。買っていたらいい商品を見ると、トイレトペーパーなどの雑貨品や生鮮食品（牛乳やパン）など、かなり利用してもらっています。島の組合員から『2斤食パンおいしかったから、毎週頼みたい』という嬉しい声も頂き、生協として役立っているという事を実感します。しかしその反面で船代がかかるので利用しにくいという声もあり、これからもっと利用しやすい環境づくりが必要だとも感じます。」

問：会えない組合員とコミュニケーションをどう工夫していますか。

「担当している配達コースは留守が多く、エリア的に海に面しており、風が強い日が多いので、配達品の置き方は考えるようにしています。」

問：職場での兄貴として、心掛けていたり、取り組んでいることは何ですか。

「自分の職場では若手とベテランの交流も多く、気軽に話せる職場です。今年度からチーフという事でグループの状況を全体的に見て気付きました。」

「マイスターの認定証はみんなに知らせるよう階段の踊り場に掲示しています。マイスターのバッジも毎日付けて仕事をしています。」

問：なりたいマイスター像はどのようなものですか。コース受講前と現在ではどうですか。

「受講前は、マイスターという言葉もあまり聞き慣れずどういったコースなのだろうという思いが強かったです。受講していて感じた事は、人と接する仕事というものは、これが正しいという事はないとい

うことです。グループワークなどで、他の人の話を聞き、自分が行っていない事をしている人があり、逆に自分だけが行っている事があるという事に気付き、とても参考になりました。こういった所でこれを実践してみようとか、こうすればいいのではないかと考えるようになりました。生協では主役が組合員なので、どうすれば気持ち良く利用してもらえるかという事や商品を置いていく際に組合員が商品を取り出す時に、どう置けば取り出しやすいかという事を、今まで以上に考えるようになりました。些細な気配りやちょっとした優しさを持つというおもてなしの心を大事にして、仕事に取り組むようにしています。」

◆一周囲の方にかがきました
2011.06.07
副センター長 波多野 善郎さん →
(入協時よりの先輩)

以前は、人を引っ張るより自分のことだけをやっていた。マイスターコースを受けて、みんなのために動くようになった。春の共済キャンペーンでは、推進委員長になり、一人一人の担当者に話を聞いて全体を引っ張りみごと目標を達成した。全員の状況を把握して声掛けをしたことにより、センターみんなでやる雰囲気が生まれた。若手の手本、目標になっており、よい影響を与えている。

まじめで伝えたことは必ずやる。ほうれんそう（報告・連絡・相談）がきちんと出来ている。お誘いの対応の調整や共済の推進リーダーとして役割を發揮して、成果を確実にあげている。日間賀島でのお誘い配達を担当して成長した。若手からの信頼は厚い。やせているので昼飯をしっかり食べてほしい。

← エリアマネージャー
鈴木章人さん
(現在の上司)

センター長
マイスターコース企画委員
巾 和志さん →

若手、ベテランと交流しながら教え合っている。マイスターコースのワークでいろんな人の話を聞いて、いろんな考えがあることの気付きがあったようで、朝礼ではいつもリードしている。期待することは、達成した喜びを感じて、次につなげて欲しいということ。センター全体をリードして欲しい。

2011年度「共同購入事業マイスターコース」開講します！！

共同購入事業において、仕事の豊かな価値を担える「プロの専門スタッフ」を育むことを目指して、今年度も各生協の皆さんとともに共同購入事業のマイスターを育み合い、豊かな学びと成長の場の価値を創造していきます。

育む「マイスター像」のイメージ

クール=かっこいい兄貴

事業所現場の頼りになる存在

背中を導く、
プロ=マイスターとしての仕事ぶり

生協運動への使命と任務、そして自らの仕事が面白い、という仕事観を保持している！⇒「楽しい」（辛いけれども喜びもある）から「面白い」（厳しいがある）という段階へ！けれども奥深い発見=道

2011年度 第3期のテーマと講義

- 第1単元「協同の価値と地域担当の仕事」基本・伝統・継承
◆講義I 「共同購入事業の歴史と発展、そして今日の課題」
◆講義II 「生協の共同購入事業の業態の特性と固有価値」
第2単元「人とコトをつなぐ仕事づくり」 a
～「コミュニケーションと行動」
◆講義III 「コミュニケーション論」
～人間社会におけるコミュニケーションの本質
第3単元「人とコトをつなぐ仕事づくり」 b
～「心ある行動…ホスピタリティを学ぶ」
◆講義IV 「ホスピタリティの営みと価値」
第4単元「主体的な仕事づくり」

- ◆講義V 非営利組織のマーケティング論
◆講義VI (仮題)「味噌育てと私の生き方」
第5単元「組合員さんのくらしとマーケティング活動 a」
◆講義VII 「生協運動の使命」
◆講義VIII 「共同購入事業の実務」
～共同購入の仕事への前提、実践のケース
第6単元「組合員さんのくらしとマーケティング活動 b」
◆講義IX 「生協の商品事業のあり方」
第7単元「人と社会への関心づくり」
◆講義X 「消費者の権利と消費者行政・法制度」
◆講義XI 「生命と食～食と農」

INDEX

| | |
|---------------------------|---|
| 巻頭言 シンポジウム開催にあたって 向井忍 | 1 |
| コープぎふ「おたがいさまみだ」ねこの手集会を訪ねて | 3 |
| マイスターとしての仕事づくり 修了生に聞く | 7 |

2011年 6月25日(偶数月25日発行) 定価200円
(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター 代表理事 川崎直巳
〒464-0824 名古屋市中千種区稲舟通1-39
TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
E-mail AEL03416@nifty.com HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>